

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒103-8210

住所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

花王株式会社

氏名 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆

(代理人) 川崎工場 工場長 和田 康 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項（同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	花王株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	
	<input type="checkbox"/>	上記以外の事業者（任意提出事業者）	
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス 及びボディーシャンプー等		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	24,752 k l
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	プロダクション部門 設備改善G
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号
	電話番号		044-266-3231 (大代表)
	FAX番号		044-288-8682
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成 25年度 ～ 平成 27年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 http://www.kao.com/jp/corp/eco/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

【花王の使命】

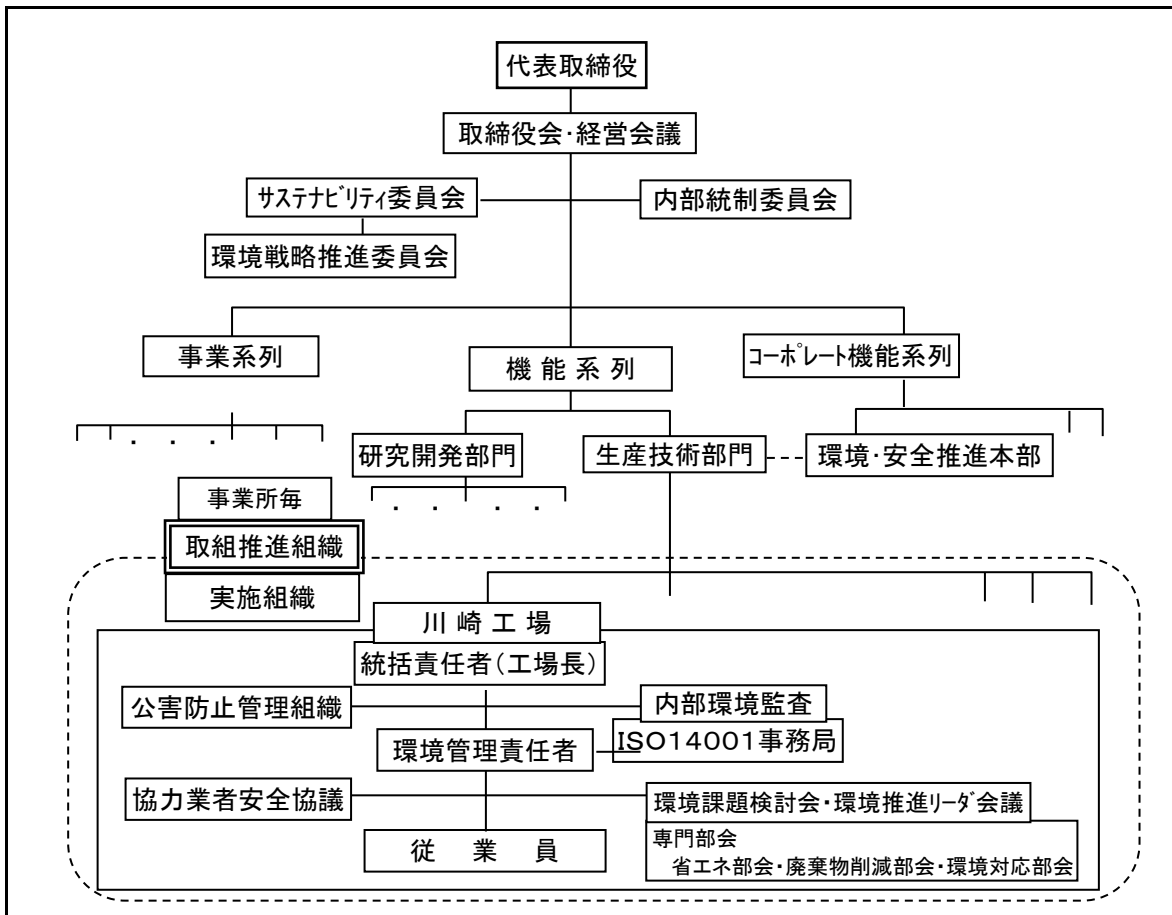
私たちは、消費者・顧客の立場にたって、心をこめた”よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある、豊かな生活文化の実現に貢献することを使命とします。私たちは、この使命を達成するために、全員の熱意と力を合せ、清潔で美しくすこやかな暮らしに役立つ商品と、産業界の発展に寄与する工業用品の分野において、消費者・顧客と共に感動を分かち合う価値ある商品とブランドを提供します。

【環境方針】

花王の使命に基づき、花王（株）川崎工場の環境方針は、『花王ウエイ』に基づき、「消費者、顧客の立場に立って、心をこめた“よきモノづくり”を行い、喜びと満足のある豊かな生活文化の実現に貢献する」ことを基本理念とし生産活動において、環境の保全と人の安全に配慮するとともに、社会の持続的な発展に貢献します。

1. 花王製品の製造等の事業活動においては、環境側面を的確に捉え、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定め、定期的に見直しを行い、その達成に努めます。
2. 環境マネジメントシステムの継続的な改善と有効性を維持するために、内部監査を実施します。
3. 省資源、省エネルギー、廃棄物削減等に配慮した技術の開発応用に努め、資源やエネルギーの効率的な使用と廃棄物等の再資源化を図ります。
4. 環境マネジメントシステムの推進を通じて環境保全と汚染の予防に努めます。併せて工場及びその従業員の質的向上を図ります。
5. 環境関連法規及びその他の要求事項を厳守し、社会的責任を果たします。
6. 本方針は、組織で働く又は組織のため働く全ての人に周知し、併せ社外に公開します。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成24年度		目標年度	平成27年度		
基準排出量	(実) (調)	48,007 47,981	t- CO ₂	目標排出量	(実) (調)	45,520 t-CO ₂
削減率	(実) (調)	5.2 5.2	%	削減量	(実) (調)	2,487 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産重量	単 位	t-CO ₂ / t
基準年度の値	0.1131	目標年度の値	0.1097
削減率	3.0	%	
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、排出量原単位の値を年平均で1%以上削減することを前提に目標を設定した。

省エネルギー設備の導入については、基準年度以前から積極的な取り組みを行ってまいりました。具体的には、これまで次のような取組を実施してきました。

- コージェネレーションシステムの導入・・・平成11年・平成16年
- 乾燥塔設備の大型送排風機への回転数制御装置の導入・・・平成15年
- インバーター式蛍光灯安定器への切替え実施・・・平成21年
- プロセス設備より廃熱利用による吸収式冷凍機の導入・・・平成21年
- 各建屋の非常口誘導灯へのLED及び陰極冷熱式誘導灯の導入・・・平成21年
- 空気圧縮機の台数制御装置の導入・・・平成23年
- 新型の小型貫流ボイラー更新(2.5t/h×4基=10t/h)・・・平成24年

今後、空調機等の高効率機器への更新・生産設備でのエネルギー有効利用を実施する事を目標に反映しました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

○ CO₂削減に向け、さまざまな活動の展開

「環境宣言」において、花王グループが2020年までにめざしているCO₂の削減量は、2005年比マイナス35% (売上高原単位ベース)です。その実現に向けて、生産部門では、エネルギー源を重油から天然ガスに切替えたり、効率的な運用のためコージェネレーションを導入するなど、CO₂排出量の削減に向けた取り組みを続けています。

また、鉄道貨物や船舶による輸送の活用やトラック輸送の際の効率化、さらには、各事業場のオフィスにおける省エネルギー活動の推進などにも、積極的に取り組んでいます。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ報告を定期的に行なう。 ○ボイラー空気比の適正化 小型貫流ボイラー設備（4基）の最適な燃焼を維持するため、定期点検において、空気比の適正化を行う。 ○ヒートポンプの導入 標準的な熱源設備よりも高効率なヒートポンプの導入を検討し、工場内空調機器更新の際採用すると共に、生産設備での温水・冷水を製造する設備への導入検討を行なう。 ○コージェネレーション設備の保安全管理 ガス圧縮機、ガスタービン、排熱ボイラー、脱硝装置等の定期的な保守管理を行い、総合的な高効率運転の維持を行う。 ○コンプレッサーの運転管理 コンプレッサーの吐出圧力を低圧化するため、台数制御システムの効率運用を行う。また、空気除湿機のエアーロス改善の検討を行う。 ○冷却水ポンプの能力最適化 既存の冷却塔能力を見直し、適正な機器へ更新を行う。 吐出圧力制御装置の導入により、電力削減を図る。 ○工場水銀灯の保守性を考慮した照明器具の選定 高所設置の水銀灯をLED照明に更新。メンテナンスの効率化及び消費電力の削減を図る。
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

生産設備で使用の冷水及び温水等の製造及び空調設備等に、蒸気・冷水(冷凍機)を使用し行なっています。これらの製造・設備に大気中の熱を利用した、ヒートポンプ方式の機器への移行を検討。導入することで、再生可能エネルギーの活用を推進して行きたい。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
ヒートポンプ機器	冷房能力：200kW(7台) 導入場所：川崎工場	H22年度	
ヒートポンプ機器	冷房能力：150kW(6台) 導入場所：川崎工場	H23年度	
ヒートポンプ機器	冷房能力：39kW(10台) 導入場所：川崎工場	H24年度	
ヒートポンプ機器	冷房能力：180kW(5台) 導入場所：川崎工場	H26年度	予定

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

省エネルギー設備の導入については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取組を実施してきている。

- コージェネレーションシステムの導入
 - 都市ガスを用いるコージェネレーションを下記に導入し、生産した蒸気、電力を自家消費する。
 - ・1号機：発電容量 1,100 kW 排熱ボイラー 2.7 t/h 平成7年7月稼働
尚、3号機設置に伴い H15年8月本設備を撤去した。
 - ・2号機：発電容量 6,450 kW 排熱ボイラー 13.2 t/h 平成11年2月稼働
 - ・3号機：発電容量 6,230 kW 排熱ボイラー 11.0 t/h 平成16年2月稼働
- 乾燥塔設備の大型送排風機への回転数制御装置の導入 平成14年度に完了
送風機 150 kW 2台 排風機 500 kW 2台
- インバータ式蛍光灯安定器への切替え実施 平成21年度 75% 達成
設置台数 2,758 灯 取替え台数 2,077灯
- プロセス設備より廃熱利用による吸収式冷凍機の導入 平成21年度2月稼働
- 各建屋の非常口誘導灯へのLED及び陰極冷熱式誘導灯の導入 平成21年度に100%達成
- 空気圧縮機の台数制御装置の導入 平成23年3月稼働
- 新型の小型貫流ボイラー更新 (2.5t/h×4基=10t/h) 平成24年3月稼働

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- お客さまと“いっしょにeco”を具体化した「アタックNeo」
「お客さまと“いっしょにeco”」を具体化した初めての製品が、衣料用超コンパクト液体洗剤「アタックNeo」です。環境配慮の視点における最大の特長は、「すすぎ1回で済むこと」。独自の技術が生んだ新洗浄成分アクアW（ダブル）ライザーは、高い洗浄力を発揮しながら、すすぎの際の泡切れがよく、洗浄成分が繊維に残りにくいため、通常2回のすすぎを1回にすることが可能になりました。大幅な節水と共に、洗たくにかかる電気の節約や時間の短縮も実現。
さらに、超濃縮化技術によって、容器も従来の液体洗剤の半分以下の大きさとなったため、プラスチックの使用量も減り、持ち運びもラクになりました。高い付加価値を提供しながら、楽しくラクにできるエコを実現した製品といえます。
- 「花王・みんなの森づくり活動」を展開
2000年から、財団法人都市緑化基金とのオリジナル緑化プログラムとして行なっているのが、「花王・みんなの森づくり活動」です。生活の身近な場所で、緑豊かな環境を創造することを目的に、樹木の保護、植栽、草刈り、池づくり、鳥の巣箱の設置、シンボルとなる大樹の育成といった、地域の緑や自然を守り育てる、さまざまな市民活動を支援。これまでに参加された市民はのべ15万人を数え、植えられた苗木は約9万8,000本、樹木の保全に取り組んだ森林の面積は約2,731haに及びます。
また、2005年からは、「みんなの森応援団プロジェクト」もスタート。公募で選ばれた環境保全への意識の高い大学生が、「花王・みんなの森づくり活動」支援先団体の活動に参加して、団体の応援記事を書きウェブサイトに掲載することで、活動を広く社会に知らせようという取り組みです。
花王は、次世代に豊かな自然を引き継ぐため、今後も「花王・みんなの森づくり活動」に取り組んでまいります。
- 花王エコラボミュージアムの設立
2011年5月にオープンしたエコラボミュージアムは原材料調達から廃棄まで製品のライフサイクル全体で、環境に配慮した花王のモノづくりやエコ技術について、幅広い年齢層の方々に触れて頂きます。
2012年10月には、来館者2万人を達成しました。
- 廃棄物の減量化・分別化の推進

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	48,007	t-CO ₂
(調)	47,981	

イ 第 3 号該当者等

		t-CO ₂
--	--	-------------------

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
川 崎 工 場	川崎市川崎区浮島町1番2号	1642	石けん・合成洗剤製造業	48,007 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--